

最近の本学の取組等について
2026.3 ～ 2026.6

活動報告

1. FD 研究会「国際戦略の実質化のために～教育と研究で進める国際化～」を開催

3月2日、FD研究会「国際戦略の実質化のために～教育と研究で進める国際化～」を対面・オンライン併用のハイブリッド形式で開催しました。当日は、教職員及び博士後期課程学生合わせて145名が参加しました。

文部科学省高等教育局参事官補佐（国際担当）の庄司祐介氏から、留学モビリティの現状や国際化政策について講演があり、日本人学生50万人派遣、外国人留学生40万人受入といった2033年目標を含む国の方針の紹介に加え、大学の国際化に必要な方向性や要素が示されました。

長岡技術科学大学副学長（国際戦略担当）の宮下幸雄氏からは、同大学でのツイニングプログラムや海外実務訓練など、工科系大学における国際化の先導的な実践事例が共有されました。

本学からは、岩崎誠副学長が国際戦略の全体像と今後の取組を説明し、リサーチ・アドミニストレーション室の藪上あづさシニアURAが、THE・QSランキングや国際共同研究指標（CNI）に基づく本学の現状分析を報告しました。また、山口裕史国際交流課長から、研究者及び学生の国際活動を支える各種制度や協定校ネットワークについて紹介がありました。

最後に井門康司理事・副学長から閉会の挨拶があり、本研究会は盛況のうちに終了しました。



文部科学省 庄司氏 講演の様子



長岡技術科学大学 宮下氏 質疑応答の様子

2. ARTFUL CAMPUS 2026 年名古屋工業大学賞授与式

本学では、ARTFUL CAMPUS の取り組みの一環として、愛知県立芸術大学の卒業・修了作品の中から優れた作品を選定し、「名古屋工業大学賞」を授与しています。3月3日、本学において2026年名古屋工業大学賞の授与式を執り行いました。

2026年の受賞者は、

森島彩乃さん（大学院美術研究科 博士前期課程 美術専攻 油画・版画領域 2年）、
森桜子さん（大学院美術研究科 博士前期課程 美術専攻 油画・版画領域 2年）、
近藤彩香さん（美術学部 美術科 彫刻専攻 4年）の3名です。

授与式には、受賞者3名のほか、愛知県立芸術大学の白河宗利学長、倉地久副学長、
本学の小畑誠学長、井門康司理事・副学長及び両大学の教職員が出席しました。



前列左から、倉地副学長、白河学長、近藤さん
森さん、森島さん、小畑学長、井門理事



森島彩乃作「呼吸を止めないで」



森桜子作「実存の観測」



近藤彩香作「雪解けの日、離れた丘」

3. 2025 年度学生表彰 表彰式

3月16日、大学会館にて2025年度学生表彰の表彰式を行いました。本表彰は、本学が定める「学生等の表彰に関する要項」に基づき、学術活動および課外活動等において優れた成果を挙げた学生および団体を対象に行うものです。

学長表彰では、研究成果の発表や全国規模の大会等を通じて、本学の教育・研究水準の向上や名誉向上に顕著な貢献をした学生・団体が表彰されました。また、副学長表彰では、学術活動や課外活動において東海地区レベルで優れた成果を収めた学生・団体が表彰されました。

本学では今後も、学生一人ひとりの挑戦と成長を支援し、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでまいります。



小畑学長（前列中央右）、日原副学長（前列中央左）と学長表彰の受賞者

4. 若手研究イノベータ養成センター業績優秀者4名を表彰

3月23日に2025年度若手研究イノベータ養成センター表彰式を執り行いました。センター長の井門康司理事より、直近の年度評価等を基に総合的かつ専門的に判断し選出された業績優秀者（優秀賞1名、奨励賞3名）に表彰状が授与されました。

【優秀賞】安川直樹 助教（生命・応用化学類）

【奨励賞】湯川光 助教（電気・機械工学類）

【奨励賞】小泉透 助教（情報工学類）

【奨励賞】福井信気 助教（社会工学類）

センター長の井門理事より、今後の更なる飛躍を期待する内容の激励の言葉が述べられ、最後に参加者全員で記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中締めくくりとなりました。



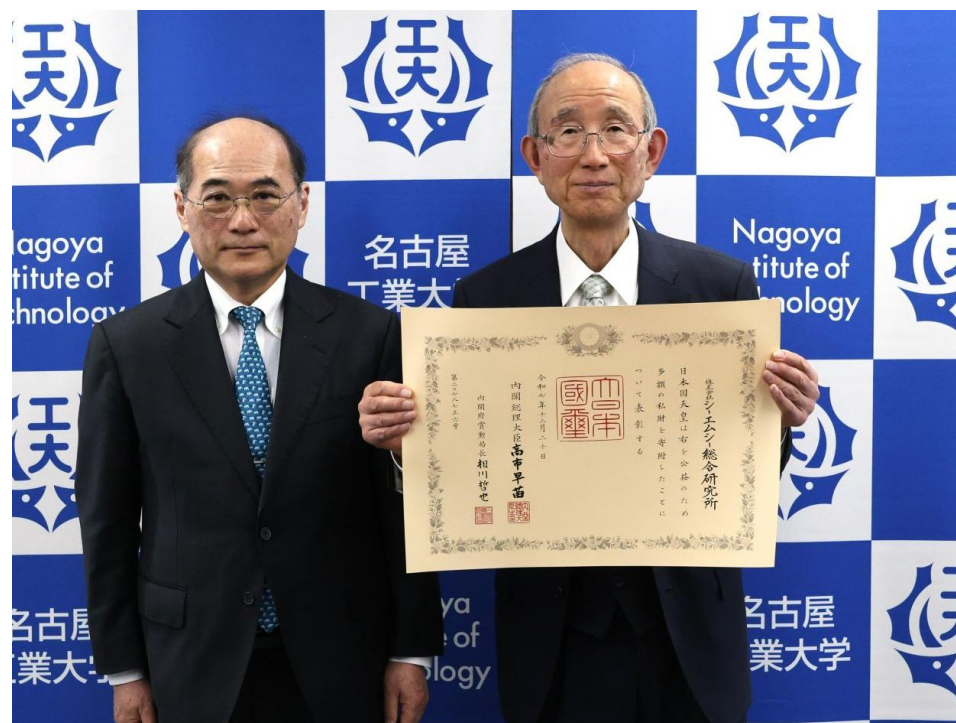
1列目左から、湯川助教、安川助教、センター長 井門理事、小泉助教、福井助教
2列目はメンターと若手研究イノベータ養成センター関係教員

5. 寄附者へ紺綬褒章の物件伝達を執り行いました

3月27日、学長室にて株式会社 CMC 総合研究所代表取締役元島栖二氏へ紺綬褒章における物件伝達を執り行いました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄附した個人又は団体を対象とするもので、株式会社 CMC 総合研究所には、本学のさらなる発展をご支援いただくご意向のもと、女性活躍支援基金および地球上で家に困る人々へのインスタントハウス基金等へのご寄附を賜りました。

小畑誠学長は元島氏に紺綬褒章を伝達するとともに、女性活躍推進等のため有効に活用したいと感謝の言葉を述べました。



小畑学長（左）と元島氏（右）

6. 名工大発ベンチャーの株式会社 SAZO が J-Startup CENTRAL に選定されました

名古屋工業大学発ベンチャーで、AI を活用した越境 EC プラットフォームを展開する[株式会社 SAZO](#)（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：ギル・マロ、情報工学科）が、経済産業省が推進するスタートアップ支援プログラム「J-Startup」の中部地域版である「[J-Startup CENTRAL](#)」に選定されました。

本選定にあたり、代表取締役社長のギル・マロ氏および、共同創業者で本学情報工学科卒業生のキム・ドンヨプ氏が来学し、小畑学長および柿本理事に選定の報告を行いました。小畑学長からは、大学発ベンチャーとしてのこれまでの取り組みを評価するとともに、今後ますますの成長に期待する旨の言葉がありました。



左から小畑学長、ギル・マロ氏、キム・ドンヨプ氏、柿本理事

7. トランスファラブルスキル養成ワークショップ（DGA ワークショップ）を開設

本学は、2026 年 4 月より、博士後期課程学生のキャリアの選択肢をさらに広げ、博士人材が産業界をはじめとする多様な分野で活躍できる力を養成することを目的として、同課程の学生を対象にした「トランスファラブルスキル養成ワークショップ（DGA ワークショップ）」を開設しました。

トランスファラブルスキル（Transferable Skills）とは「移転可能なスキル」という意味で、重要なスキルと認識されています。特に博士後期課程学生においては、自身の専門分野などの研究スキルの拡張だけでなく、研究を超えたビジネス面でも有効に活用することができるスキルです。

このワークショップでは、高度イノベーション人材の育成に関して、企業ニーズをもとに、名古屋工業会（全学同窓会）、愛知県・STATION Ai（オープンイノベーション拠点）などと協同した、実践的プログラムを実施します。全 6 スキルを、それぞれ産業界等の第一線にいる講師が 1 日ばかりで提供します。

本件については、3 月 21 日（土）の中日新聞朝刊「金融・財務などビジネス即戦力育成 名工大博士課程に新講座」で取り上げられました。

また、内閣府 [大学支援フォーラム PEAKS 博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォーム 第 I 期取りまとめ](#)（2026 年 2 月 27 日）の中で、本学の取組「トランスファラブルスキルの整理・可視化と育成改革」が好事例として紹介されました。（32 頁目に記載）

トランスファラブルスキル 養成ワークショップ (DGA ワークショップ)

社会で活躍するための幅広い汎用的な能力を全力サポート

産業界では、トランスファラブルスキルを身につけた博士人材を求められています。このワークショップは、博士後期課程の学生に幅広い職業選択の機会を提供し、博士号を持つ人材が産業界で十分に能力を発揮できるようにするために企画しました。

博士後期課程在学中に「スキル」を磨こう!!

2026年4月開設

トランスファラブルスキル

トランスファラブルスキル (Transferable Skills) とは「移転可能なスキル」という意味で、産業界をはじめとする多様な分野で活躍するために必要なスキルとして、重要なスキルと認識されています。特に博士後期課程学生においては、自身の専門分野などの研究スキルの拡張だけでなく、研究を超えたビジネス面でも有効に活用することができるスキルです。

トランスファラブルスキル養成ワークショップ (DGA ワークショップ)

高度イノベーション人材の育成に関して、企業ニーズをもとに、名古屋工業会（全学同窓会）、愛知県・STATION Ai（オープンイノベーション拠点）などと協同した、実践的プログラムを実施します。右側には、今回提供されるスキルの詳細と、各講師の紹介が示されています。

ワークショップは、下記5つのスキル（10:00~17:00）と各1日1回の講義と課題の達成）から構成されます。

スキル	講師	内容
SKILL 1 課題解決力	佐藤 健一	問題を解決するために必要なスキルを身につけ、実際に課題を解決する能力を養う。
SKILL 2 企画・戦略	佐藤 健一	事業計画や事業の進捗状況を把握し、事業計画の達成に向けて行動する能力を養う。
SKILL 3 デザイン思考	佐藤 健一	課題解決に向けたアイデアを生み出し、アイデアを実践する能力を養う。
SKILL 4 プロジェクトマネジメント	佐藤 健一	プロジェクトの進捗状況を把握し、プロジェクトの達成に向けて行動する能力を養う。
SKILL 5 アナリティクス	佐藤 健一	データを分析し、データを活用する能力を養う。
SKILL 6 エキスパートコミュニケーション	佐藤 健一	専門知識の伝達やチームのリーダーシップを発揮する能力を養う。

オープンバッジ（修得証明書）

全スキルに合格した学生には、マイタロクレデンシャルを取り入れ、DGAワークショップにその証明として「オープンバッジ」を挿入し、学生自身のスキルの可視化を図ることができます。また、認定として、オープンバッジの取得、修得証明書を発行し、学生自身のスキルの可視化を図ることができます。

成績評価の基準

達成度	評価基準
5 達成目標を達成した	100~90点
4 達成目標に十分に達している	89~80点
3 達成目標に達している	79~70点
2 達成目標に近づく	69~60点
1 達成目標に達していない	59点以下

名古屋工業大学 博士グローバルアカデミー NITech DGA

8. AICROSS における AI 活用研究の紹介

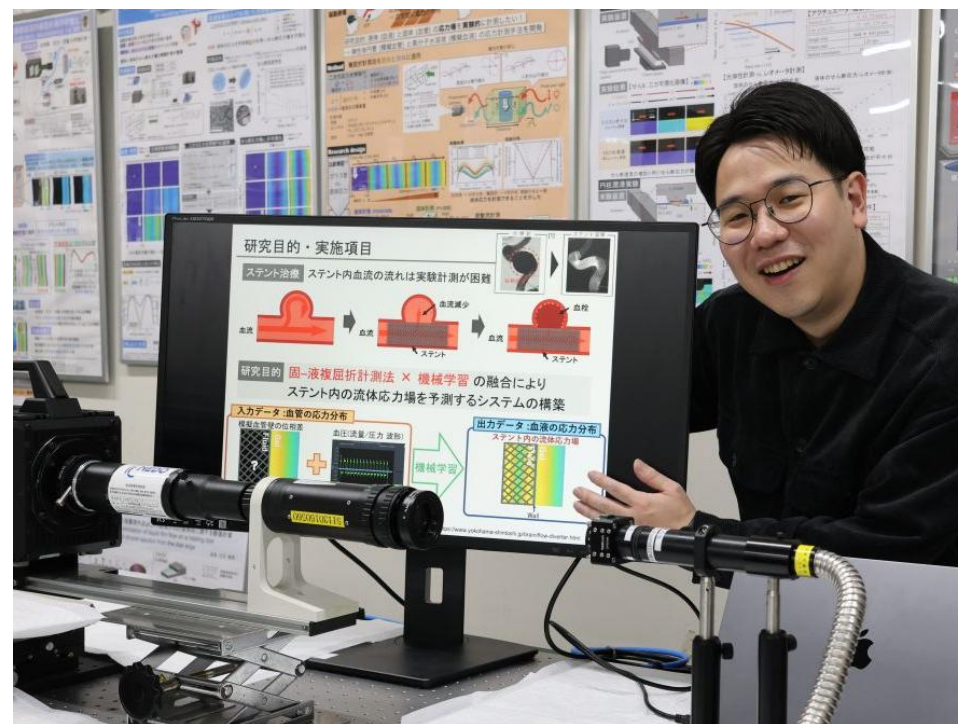
本学は 2025 年 12 月に、学内学会 AI 共創科学フォーラム「AICROSS」を設立しました。「AICROSS」は AI 技術を共通基盤として、「マテリアルサイエンス」「ヘルスケア」「インダストリー」などの分野融合を促進し、新たな科学研究の創出を目指す取り組みです。現在、学内の若手研究者 25 名が参加し、分野横断的な交流と共創を進めています。

この枠組みの一例として、電気・機械工学類の武藤真和助教は、AI を活用した血流解析に関する研究に取り組んでいます。本研究では、脳内の血管を流れる血液を対象に、血液の圧力状態を予測・可視化する実験計測と機械学習の複合手法を開発しています。従来は数式に基づく複雑な計算が必要とされ、予測が困難とされてきた血流解析に対し、AI を導入することで、高い精度での予測を可能としています。

さらに、本手法は血管壁データに基づいて血流や圧力状態を可視化でき、脳動脈瘤治療におけるステント挿入の評価など、医療分野への応用が期待されています。加えて、流体力学をはじめとする他分野への展開可能性も有しており、AI を基盤とした新たな研究アプローチを提示するものです。

本学では今後も、AICROSS をはじめとする分野横断的な取り組みを通じて、AI を活用した研究の高度化と社会課題の解決に資する研究成果の創出を目指してまいります。

なお、本取り組みは、2026 年 4 月 21 日（火）の中日新聞朝刊において、「科学のための AI 名工大挑む」として取り上げられました。



9. コネクティッドカーに関するジョイントセミナーを開催

4月24日（金）、本学社会工学科（経営システム分野）の学部生および大学院生向けの限定イベントとして、トヨタ自動車株式会社コネクティッドデータ基盤開発部と川村研究室によるジョイントセミナーを開催しました。

本セミナーは、川村大伸教授が担当する社会工学科（経営システム分野）1年生必修科目「社会工学基礎Ⅱ（データ解析）」の講義内容と連動して企画されたものです。本科目では、データの分析方法のみならず、解析結果をどのように実務に応用するのかなど、実践的観点を含んでいることが特徴であり、トヨタ自動車株式会社のコネクティッドカーも事例として紹介しています。

今回のジョイントセミナーでは、実際にコネクティッドカーから取得されるデータの利活用に取り組んでいる実務家の方々をお迎えし、データ利活用の具体的な取り組みについて、技術的側面およびマネジメントの側面の双方からご講演いただきました。あわせて、日々の業務内容やキャリア形成に関する考え方についても紹介され、学生が企業におけるデータ活用の実際を具体的に理解する機会となりました。質疑応答では約20件の質問が寄せられるなど、予定時間いっぱいまで質問が続く盛況なセミナーとなりました。



10. 共立マテリアル株式会社とネーミングライツ事業実施契約を締結

本学は、教育及び研究環境の充実のための財源確保を目的に、ネーミングライツを導入しています。

この度、共立マテリアル株式会社（本社：愛知県名古屋市港区、代表取締役社長：谷村吉也氏）とネーミングライツ事業実施契約を締結しました。

この度、対象施設へのサイン設置が完了したことを受け、共立マテリアル株式会社 代表取締役社長 谷村 吉也氏と本学の小畑 誠学長による対談を行い、採用・就職活動に関する話題を中心に意見交換を行いました。

ネーミングライツパートナー：共立マテリアル株式会社

対象施設：NITech マート 売店（生協 はじっこ店）

愛 称：共立マテリアル Campus Shop

契約期間：2026 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日



対談の様子 左：谷村吉也社長、右：小畑誠学長



共立マテリアル Campus Shop にて記念撮影

11. FD 研究会「科研費説明会 ～科研費を通じた研究活動・キャリア形成～」を開催

5 月 28 日に、FD 研究会「科研費説明会 ～科研費を通じた研究活動・キャリア形成～」を開催しました。

小畑学長の開会あいさつの後、文部科学省 研究振興局 学術研究推進課長 板倉 寛氏より、「科研費改革について」を主題とした講演がありました。その後、板倉氏と本学教員を含む 5 名で「科研費採択とこれからの研究者人生」をテーマにパネルディスカッションを行い、永田 謙二副学長がファシリテーターを務めました。

若手研究者をはじめとした、科研費申請に疑問を抱える研究者、また今後のキャリア形成を考える博士後期課程の学生に向けて、実践的なノウハウや申請のコツを共有する有意義な時間となりました。

当日は、学内の教職員や博士後期課程の学生ら合計 113 名が多く参加し、活気あふれる会となりました。



12. 次世代半導体エレクトロニクス共創研究センター開所記念シンポジウムを開催

本学では、従来の「極微デバイス次世代材料研究センター」と「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」を統合し、2026年4月1日に新たに「次世代半導体エレクトロニクス共創研究センター」を発足しました。この統合により、窒化ガリウム（GaN）など次世代半導体とその応用システムの研究開発を推進すると同時に、基礎研究・社会実装・人材育成を一元的に進める強固な研究拠点を形成します。

6月2日（火）、開所記念シンポジウムを開催し、新センターの紹介と旧センターで得られた技術成果の報告に加えて、半導体開発の最前線に立つ企業の方々にご来訪いただき、その実用化状況についてご講演いただきました。

日時：2026年6月2日（火）14：00～16：45

場所：名古屋工業大学 4号館1階ホール

プログラム：

①開会挨拶

本学学長 小畑 誠

経済産業省中部経済産業局 地域経済部長 浅井 敬介 様

②講演

- ・次世代半導体エレクトロニクス共創研究センター紹介
- ・GaN/Si パワーデバイスを用いたオンボードチャージャーの開発
- ・GaN/Si ヘテロエピとデバイスへの応用
- ・次世代半導体エレクトロニクスの社会実装を支える MOCVD 量産装置技術の開発
- ・EGOS 基板を用いた高品質 micro LED の作製とその応用アプリケーション
- ・新規デバイスを活かすために必要な、デバイス以外のこと

③閉会挨拶

本学理事・副学長 柿本 健一



13. 6月オープンキャンパスを開催

受験生向けのオープンキャンパスを開催しました。

日時：2026年6月6日（土）10：00～15：30

対象者：高校1～3年、既卒生等、保護者

内容：

①特別講演会

- ・「工学部の学科選び ～自分に合った道を見つける～」迫 克也 アドミッションオフィス長
- ・「名工大のキャリア教育 ～学生生活の先にあるもの～」日原 岳彦 副学長

②学科説明及び模擬授業

③保護者向け講演会

- ・「大学概要」前田 健一 副学長
- ・「名古屋工業大学の教育と学びの特色」吉田 江依子 副学長

④女子学生向け座談会

⑤個別相談会

⑥学内ツアー

⑦課外活動紹介

参加者数：1,991名
(昨年度参加者数：1,880名)



特別講演会「名工大のキャリア教育」



模擬授業（生命・応用化学科）



女子学生向け座談会

活動予定

1. 7月オープンキャンパス

受験生（高校1～3年、既卒生等）を対象にしたオープンキャンパスの開催を予定しています。

日時：2026年7月31日（金） 9:50～16:30

対象者：高校1～3年、既卒生等

内容（予定）：

- ・ 特別講演会
- ・ 模擬授業

2. 第2回キャンパスデザイン・ワークショップ 「街とつながる“わたしたち”のキャンパス」

法政大学デザイン工学部建築学科教授で建築家の小堀哲夫氏と共に、
”学びと暮らしが連続する境界線”を考えるデザインワークショップを開催します。

日時：2026年7月9日（木）13:00～17:30

場所：本学 NITech Hall

申込：<https://forms.cloud.microsoft/r/7Z7kyFu2bZ>

詳細：[2026年7月9日の行事予定](#)

名古屋工業大学（御器所）キャンパス広域圏はるかなる未来
キャンパスデザイン・ワークショップ
Workshop!
VOL.2
街とつながる“わたしたち”のキャンパス
【キャンパスデザイン・ワークショップ 参加者募集のお知らせ】
わたしたちのキャンパスと街がどのように繋がっていくか、
“学びと暮らしが連続する境界線”を考えるデザインワークショップを開催します。
街のようにキャンパスをつかい、キャンパスのように街を歩けるようになるために、
ぜひ共に未来のキャンパスについて考えてみませんか。
みなさまの声を未来のキャンパスをかたちづくれます。
多くの方のご参加をお待ちしております。

2026.
7.9 Thu. 13:30 ~ 17:30

会場：Nitech Hall 1Fホール
申し込み方法：QRコード

小堀哲夫
Tetsuo Kobori
建築家
法政大学デザイン工学部建築学科教授

1979年、岐阜県生まれ。1997年、法政大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了。2000年、株式会社小堀哲夫建築設計事務所設立。2007年「法政大学デザイン工学部」により新たな教育環境と、地域・国際社会との連携を推進。2015年、建築家、学生とともにワークショップを通じて議論。代表作「HOKU」HOKU INNOVATION CENTER、法政大学OIOS LIGHT / Common House

教員の受賞

1. 王建青教授が総務省 令和7年度 SCOPE 成果展開推進賞を受賞

受賞者：電気・機械工学類 王建青教授（[研究室 HP](#)）

概要：本賞は、2018 年度から 2021 年度に実施された戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE 事業）「微弱無線周波数帯を活用した体内深部まで高速・高信頼で通信可能な医用インプラント通信機の研究開発」において、事業終了後も研究成果の社会展開が継続的に進められている点が高く評価され、授与されたものです。

同研究では、人体への影響を抑えつつ体内深部との安定した無線通信を可能とする技術の確立を目指し、医療分野への応用を見据えた研究開発が行われてきました。

3 月 2 日、本学学長室において授賞式が執り行われ、総務省東海総合通信局長 磯寿生氏より表彰盾が授与されました。



小畑誠学長（左）、王建青教授（中）、磯寿生局長（右）

2. 北川啓介教授、北川珠美研究員が 2026 年日本建築学会賞（業績）を受賞

受賞者：社会工学類 北川啓介教授、北川珠美研究員（[研究室 HP](#)）

概要：[日本建築学会賞](#)（業績）は、近年中に完成した業績であって、学術・技術・芸術などの進歩に寄与する優れた功績に対して贈られるものです。

本学の北川啓介教授と北川珠美研究員は、2011 年 3 月の東日本大震災後の避難所で出会った小学生からの「大学の先生ならすぐに家を建てて」という声を契機に、『地球上で家に困る人々が快適で丈夫な家をもつあたり前を実現する』を信念に、シンプルな工法で、形状や大きさも必要に応じて自由に選べて、質量が小さいことから、大人ひとりでも制作が簡便で、ひとつの建屋の工期は数十分から数時間と短く、屋内での断熱性や遮音性が高く、廉価性・簡便性・速度性・技術性・汎用性にも優れた構築物であるインスタントハウスを研究開発して国内外の住環境困窮者へお届けしています。

このたび、日本建築学会では、『インスタントハウスを通じた国内外の住環境向上への先駆的貢献』が高く評価され、日本建築学会賞（業績）の受賞に至りました。



3. 平澤美可三教授らのグループが第 38 回優秀板金製品技能フェア 神奈川県知事賞を受賞

受賞者：基礎類 平澤美可三教授 他（ [researchmap](#) ）

概要：優秀板金製品技能フェアは、職業訓練法人アマダスクールが主催しており、国内外の金属加工企業や学校で製作した板金作品を一堂に結集し（今回は 276 点）、優れた技術・技能を表彰し、作品展示を通して板金加工技術・技能の交流・向上を図ることを目的とした取組みです。

本学の平澤美可三教授と共同研究先の有限会社志村プレス工業所が連携して協働制作した数理造形作品は、緻密に設計されており、また高度な加工技術も評価され、神奈川県知事賞の受賞にいたりしました。



4. 柴田哲男名誉教授が『2026 Top Chemistry Scientists Ranking』で世界 2534 位、日本 150 位に選出

選出者：柴田哲男名誉教授

概要：本ランキングは、化学分野における研究業績、引用数、h-index などをもとに世界の研究者を評価したものであり、世界中の大学・研究機関から注目されています。また、ハーバード大学やオックスフォード大学をはじめとする世界の主要な大学でも広く紹介されています。

柴田名誉教授は、有機フッ素化学、PFAS 分解・再資源化、フルオロポリマー循環利用などの研究に取り組んでいます。近年は、持続可能なフッ素循環技術の開発を推進しており、今回の選出は、これらの研究成果が国際的に高く評価されたものです。

ランキング HP : [Research.com Chemistry Ranking 2026](https://www.research.com/chemistry/ranking/2026)

本学 HP : <https://www.nitech.ac.jp/research/news/13981.html>

学生の受賞

1. ヨット部の世界大会「FISU World University Championship Sailing」（クロアチア開催）への出場が決まりました！

出場者：工学専攻 創造工学プログラム 竹尾巧太郎
工学専攻 建築・デザインプログラム 島田翔平

概要：両名は、名古屋工業大学ヨット部 0B の寺内拓未さん、および名城大学の学生メンバー2 名を含む 5 人チームで大会に参加します。チームは 2026 年に開催された「セイル・オン 第 14 回 JYMA 選抜 大学&U25 マッチレース」において優勝を果たし、日本代表としてクロアチアで開催される世界大会への出場権を獲得しました。

本チームは、名古屋工業大学ヨット部で培われたつながりを基盤に結成されました。学部時代に同じ地域で競い合った仲間たちが再び集まり、世界大会では、各国のトップ学生セーラーたちとの対戦に挑みます。

チームの中心を担う竹尾さんは、艇の操縦を担う「スキッパー」として、長年培ってきた経験と判断力を武器にチームを牽引しています。大学から競技を始めた島田さんは、帆の調整を担当する「トリマー」を務めます。限られた期間の中で技術を磨き、世界大会出場へとつなげました。また、名古屋工業大学ヨット部 0B の寺内さんは、レース中の状況分析や戦略立案を担う戦術担当としてチームを支えています。

詳細：[ヨット部の世界大会への出場が決まりました | 国立大学法人名古屋工業大学](#)



2. 電気・機械工学科の鈴木裕比佳さんに感謝状が贈られました

受賞者：電気・機械工学科 鈴木裕比佳

概要：鈴木さんは、三好丘行政区（みよし市）において、令和7年10月に開催された「名古屋刑務所 矯正展」にて、当日の進行に尽力し、スムーズな運営に貢献しました。また、同月の「三好丘フェスタ」では、三好丘商店街ブースの運営を担当し、行事の円滑な運営に大きく貢献しました。

これらの地域行事における積極的なボランティア活動が評価され、三好丘行政区の門脇区長より感謝状が贈られ、吉田副学長より授与されました。



3. 第6回生産管理国際大会 ”Excellent Student Paper Award” “Certificate of Presentation”

受賞者：工学専攻 創造工学プログラム 柴山陸人

工学専攻 経営システムプログラム 島原楓貴

受賞対象：柴山陸人「A Multi-Period Stochastic Supply Chain Model Considering the Balances of Cost, Delivery Time and Emission Control Area」

島原楓貴「Simulation Model for Virtual Power Plants Considering the Balance of Renewable Energy」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。



左から孫晶准教授、柴山陸人さん、島原楓貴さん、ICPM2025 大会組織委員長・大阪学院大学 葛西恵里子准教授

4. Biophysics of Membrane Reactions in the Brain “Biophysical Journal Outstanding Poster Award”

受賞者：工学専攻 博士前期課程 創造工学プログラム 菊地萌恵

受賞対象：「Establishment of Functional Assay Systems for Rhodopsin-Based Optogenetic Vision Restoration」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。



5. 情報処理学会第 145 回音楽情報科学研究 Best Application 部門 学生奨励賞

受賞者：工学専攻 メディア情報プログラム 月東菜乃

受賞対象：「照明演出の支援を目的とした音響情報に基づく演出構成の自動化」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

6. 日本化学会第 106 春季年会 ハイライト講演に選出

受賞者：共同ナノメディシン科学専攻 博士後期課程 服部雅史

受賞対象：「メカノケミカル法による PFAS のフッ素化合物へのアップサイクル」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

7. 化学工学会 粒子・流体プロセス部会 動画賞（教育部門）

受賞者：工学専攻 生命・物質化学プログラム 田中祐貴

受賞対象：「H118 浮遊性粒子を用いた固液攪拌における装置条件が物質移動特性に及ぼす影響」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

8. 化学工学会第 91 年会 優秀学生賞

受賞者：工学専攻 生命・物質化学プログラム 小川稜平

受賞対象：「PB214 高粒子濃度の固液攪拌における翼設置位置の影響」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

9. 日本機械学会東海支部 第 57 回学生員卒業研究発表講演会 Best Presentation Award

受賞者：電気・機械工学科 大野智暉（※1）
同 熊澤温志（※1）
同 六厩賢星（※1）
同 寺崎健太（※2）

受賞対象：大野智暉「半導体洗浄装置およびディスペンサーにおける液滴飛翔挙動の調査研究」
熊澤温志「半導体洗浄装置内で飛翔する液滴の変形に関する数値シミュレーション」
六厩賢星「ステントの引き抜きが模擬血管に与える応力場の定量評価に向けた高速度光弾性法の開発」
寺崎健太「脂質二重膜の構造変化による膜タンパク質 TRPV1 の分子動力学解析」
受賞者の研究概要については、[こちら（※1、※2）](#)をご覧ください。

10. 電気化学会第 93 回大会 優秀学生講演賞

受賞者：工学専攻 生命・物質化学プログラム 藤井裕大
受賞対象：「気液処理により作成した親疎水パターンを利用した AgNW 透明電極」
受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

11. 第 39 回数値流体力学シンポジウム 若手優秀講演表彰

受賞者：工学専攻 博士後期課程 鷺見竜雅
受賞対象：「DNS による振動格子乱流の統計平均量に系の回転が及ぼす影響の調査」
受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

12. 物性研究所スパコン共同利用研究会「計算物質科学の今と未来」 ポスター賞

受賞者：工学専攻 応用物理プログラム 木下拓弥

受賞対象：「円柱障害物周りのアクティブブラウン粒子流における微結晶クラスターと相図」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

13. 電気化学会第 93 回大会 優秀学生講演賞

受賞者：工学専攻 材料機能プログラム 新美捷天

受賞対象：「電気化学インピーダンス法によるベントナイトの物性評価」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

14. 軽金属学会第 149 回秋期大会 優秀ポスター発表賞

受賞者：工学専攻 材料機能プログラム 細野凜

受賞対象：「圧縮ねじり加工における加工条件が A7050 アルミニウム合金の微細組織に及ぼす影響」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

15. 2025 年度日本建築学会東海支部 学生優秀学術講演賞

受賞者：工学専攻 建築・デザインプログラム（研究当時）山本純平

受賞対象：「振動型打診装置を用いた反発特性による外壁タイル張り仕上げの剥離診断」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

16. 日本金属学会 2026 年春期講演大会 第 46 回優秀ポスター賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 材料機能プログラム 浅村健太

受賞対象：「合金組成の最適化による FeCoNiTi 系多元合金の力学特性制御」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

17. 第 34 回ポリマー材料フォーラム 優秀発表賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 生命・物質化学プログラム 小島ひまわり

受賞対象：「アクセプター比率を変えた三元系有機薄膜太陽電池の作製」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

18. 令和 7 年度生物物理学会中部支部会 最優秀発表賞

受賞者：創造工学教育課程（研究当時） 菊地萌恵

受賞対象：「動物ロドプシンを用いた光刺激細胞応答系の構築—視覚再生応用を見据えた電気生理学的解析—」

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

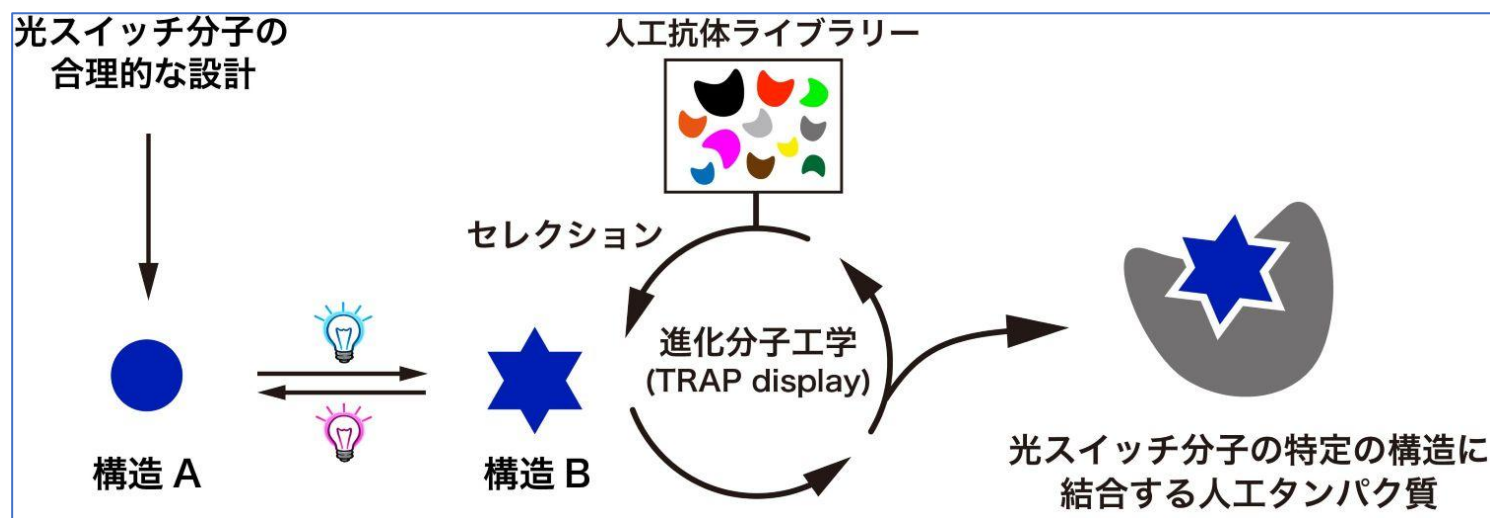
研究成果

1. 築地真也教授らの研究グループによる研究成果が、国際学術誌「[Nature Chemistry](#)」に掲載されました (2026 年 4 月 23 日掲載)。

生命・応用化学類 築地真也 教授らの研究グループは、望みの性質や光応答性を持つ光操作技術をゼロから人工的に創り出す手法を開発しました。この手法は、光で形が切り替わる小分子（光スイッチ分子）を合理的に設計し、その特定の形にのみ結合する人工タンパク質を進化分子工学の手法によって取得するものです。研究グループはこの手法を用いることで、暗所では結合せず、青色光を照射すると結合し、紫色光を照射すると解離するという性質を持つ光スイッチ分子と人工タンパク質のペアを、世界で初めて創製することに成功しました。

さらに、この開発したペアを動物細胞に応用することで、情報伝達、細胞運動、遺伝子発現、受容体活性、細胞分化など、さまざまな細胞機能を光で操作できることを実証しました。

本成果は、望みの光応答特性を持つ小分子とタンパク質のペアを自在に創り出すための手法を提供するものであり、細胞の光操作技術や光を用いた疾患治療の可能性を大きく広げるものと期待されます。



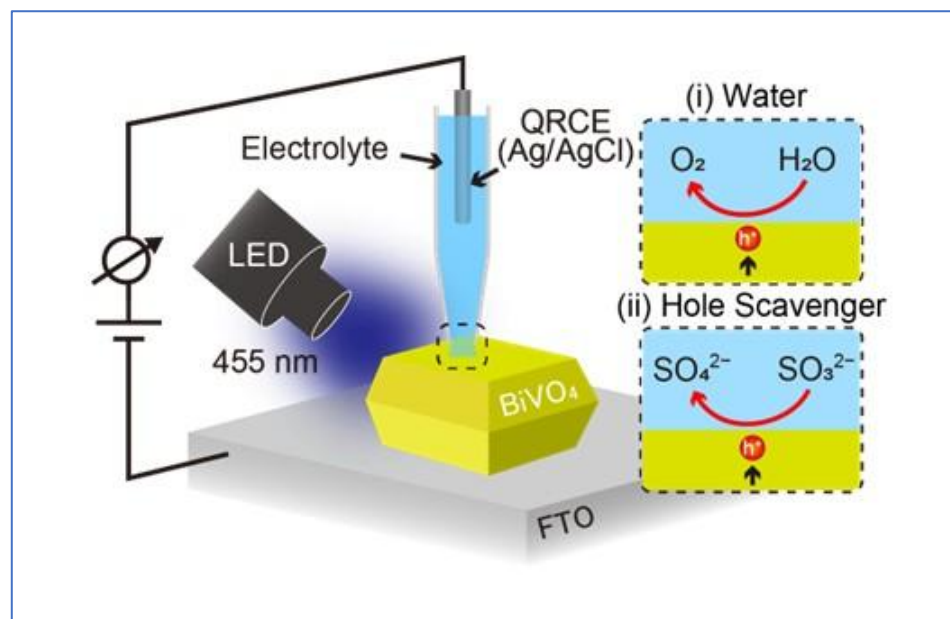
本研究の概念図

2. 平田海斗助教らの研究グループによる研究成果が、国際学術誌「[ACS Energy Letters](#)」に掲載されました (2026 年 5 月 27 日掲載)。

理工学類 平田海斗 助教らの研究グループは、サブマイクロスケール（1 マイクロメートルよりも小さい微細な領域）で局所的な電気化学計測が可能な走査型電気化学セル顕微鏡（SECCM）を用いて、バナジウム酸ビスマス（ BiVO_4 ）光アノード電極（*4）における異なる結晶面（結晶表面の向き）ごとの選択的な光電気化学反応を直接可視化し、従来の理解とは異なる反応メカニズムを明らかにしました。

本研究では、独自に開発している局所的な電気化学計測が可能な SECCM を用いて、 BiVO_4 光アノード電極上での結晶面選択的な光電気化学酸化反応を局所的に直接評価しました。SECCM による酸化反応マッピングにより、 BiVO_4 マイクロ粒子内の結晶面選択的な反応活性の可視化に初めて成功し、水および正孔犠牲剤（*6）の光酸化反応は{110}面ではなく、{010}面で優先的に起こることを実証しました。

本成果は、粉末光触媒で得られた知見だけでは、光電極の反応挙動を十分に説明できないことを示すとともに、高効率な光電極開発に向けた合理的な電極設計指針の確立に貢献することが期待されます。



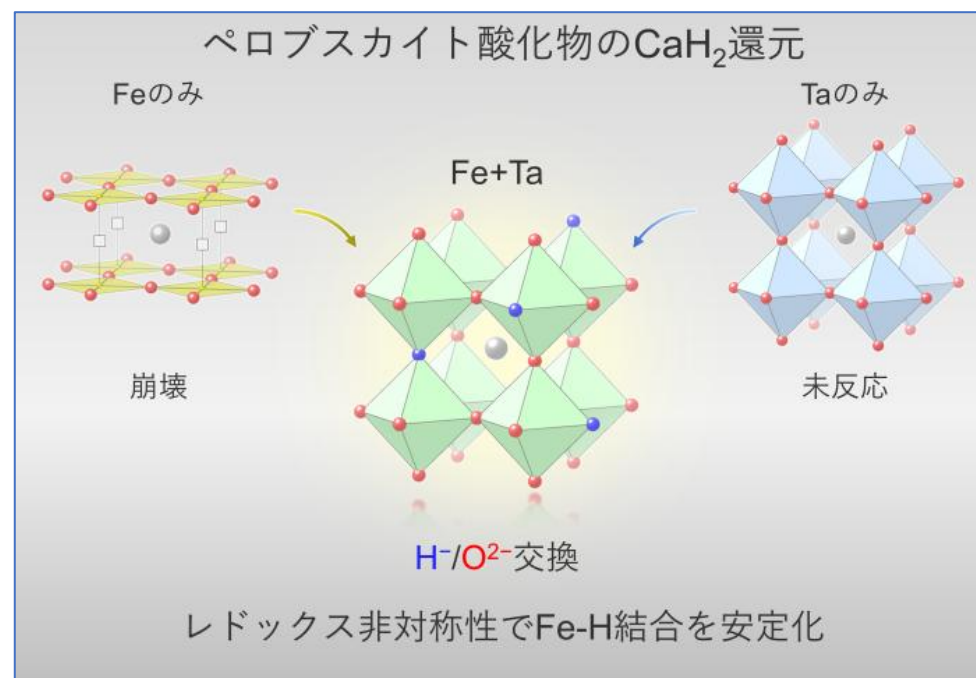
SECCM の模式図

3. 壬生攻教授らの研究グループによる研究成果が、国際学術誌「[Journal of the American Chemical Society](#)」に掲載されました（2026年6月1日掲載）。

理工学類 壬生攻 教授らの研究グループは、鉄-水素結合を含む初のペロブスカイト型酸水素化物 $\text{BaFe}_{0.5}\text{Ta}_{0.5}\text{O}_{2.7}\text{H}_{0.3}$ の合成に成功しました。還元されやすい鉄と還元されにくいタンタルを組み合わせることで、タンタルが5価のまま構造を支え、 O^{2-}/H^- 置換が進むことを見いだしました。

酸水素化物は、酸化物中に負の水素イオン（ヒドリド）を導入した材料で、触媒などへの応用が期待されています。特に、組み合わせる遷移金属種が機能を定める重要な要素であり、安価で低毒性な鉄は有望視されています。一方で、鉄系酸化物を強く還元すると、ヒドリドが入らずに酸素が抜けた酸素欠損相へ変化するため、鉄系酸水素化物は未開拓でした。

本研究グループが見出した「レドックス非対称性」は、固体中の酸化還元反応を制御する新しい材料設計指針になると期待されます。



還元されやすい鉄と還元されにくいタンタルを組み合わせることで、レドックス非対称性により初の鉄系ペロブスカイト型酸水素化物の合成に成功